

<構成的グループエンカウンター ～ショートエクササイズ編～> 照屋 初美(上級教育カウンセラー)  
・子どもを知る時の参考にできそうなエクササイズをいっぱい知ることができて、ぜひクラスでもやってみたいです。

— 1 —

・リーダーのスムーズな進め方、声かけ「ここ 間は？」「そろそろ時間で～す」等、とても参考になりました。“先生とビンゴ”の時は、先生がこれ好きだったらいいな～と、思いながら必死？になり集中している自分がいておもしろく感じました。

<保護者を味方にする効果的な対応> 仲村 将義(上級教育カウンセラー)

- ・個人面談のワークをすることによって自分自身の身振りについて改めて反省材料に気づきました。
- ・グループでの話し合いがとても良かったです。こんなに勉強になる研修は初めてです。
- ・学級懇談会の持ち方について具体的な方法を知ることができて良かったです。

<Q-Uを活用した学級づくり> 玉城 弘美・濱川 直子(小学校教諭)

・学級の分析の仕方と担任のタイプ・・・密接に関わっていることを聞きながら、自分は？とドキドキでした。事例を話して下さった先生・・・みんな悩みをかかえていてどうにかしたいと思っていて、どうにもできない。そういう先生方の手助けに今日の講座がなっていること。多くの人が学んでくれたらと思った。

<楽しく学ぶインディビジュアル・サイコロジー(アドラー心理学)>

喜友名 一(たのしい教育研究所代表)

- ・スティープン・コヴィの電車の話。自分の見方だけでなく、相手の立場に立った見方ができるようにしたい。
- ・クラスの子どもや家族に対して、どう勇気づけたらいいのかを具体的に知ることができました。さっそく実践したいと思います。
- ・勇気づけとは、「自分のことを大切に思っている人がいる」と相手に感じさせる事なんだと知りました。

<いじめ・暴力など子どもの荒れへの対応> 喜瀬 乗進(上級教育カウンセラー)

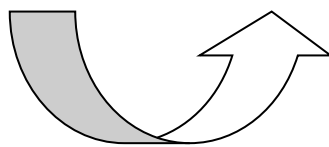
- ・荒れた学校と落ち着いた学校の違いは、「生徒に活動させること」「一般の子どもたちを育てること」ということがわかりました。「遊びを通して、子を育てる」やってみようと思います。
- ・荒れの対応は、指導に遊び心を持ち、集団内でリーダーを作ることだとわかりました。(1:1対応ではない)

<たのしい集団づくり> 喜屋武 幸(中学校教師)

- ・世論を育てることが大切だということです。当事者の支援に走りがちですが、周りを育てることを心がけたいです。
- ・集団づくりを覚悟を決めて具体的な手立て、周到な準備をすることで、子どもたちの集団により自治が行われるようになること、生徒対教師のままでは課題は解決しない。

<基礎から学ぶ解決志向アプローチ> 長田 清(精神科医)

- ・業務の中で問題に捉われていた事に気付いたので、今後の業務でも今回の事を生かしていきたいと思いました。
- ・問題解決ではなく、問題と解決は別もの。本人から解決方法を引き出していくことが大切であること学びました。



たくさん学んだ夏が過ぎ、季節は秋へ…。

## 【招聘講座】

今回は、養成講座で好評でした花輪敏男（FR教育臨床研究所所長）先生をお招きして2日間学ぶことができました。14日は“インシデントプロセス法”による事例検討を行い、情報収集の大切さを実感。15日は、不登校を“学校に対して特別な「すくみ反応」を起こしているとの視点でみていくとのお話がありました。だけど、もっともっと聞きたかった～！

### 8月14日「通常の学級における特別支援教育」

❖ 課題は1つにしぼる。長所を伸ばすということ。また、就労を意識して接することの大切さを痛感しました。診断があってもなくても、目の前の困っている子に支援するという。いつも心にとめておきたいです。

❖ ADHDの子とかわす秘密のサインや、ちょっとした言葉かけなど、通常学級でお互い楽しく関われそうな工夫をたくさんいただきました。情報収集を突っ込んで行うことの大切さも感じました。

❖ 一人一人の「特別な教育的ニーズ」とは、個別支援や支援員の配置ではなく、集団の中で個々のニーズに対応していくこと。現在の特別支援教育の課題は、知識をいかにして得るかではなく、いかに実践するかである。

### 8月15日「不登校対応チャートによる支援」

❖ ガソリンのたとえはとても具体的でわかりやすかったです。どの子にもその子にあった対応の仕方がある。本当にその通りだと思います。完璧主義な子に、失敗体験を積み重ねることは、とても勉強になりました。

❖ 問題のとらえ方について。保護者と最初の面談で伝えることが具体的でとても参考になったことはもちろん、学校（教師）が主体となりアドバイスができるよう、保護者との信頼関係を築き進めることが、不登校の問題を解決するうえで重要になり、これまでの対応が気づかないうちに親を責めることになっていたかもしれないと思い、反省と同時に今後は様々なことに配慮していきたいと思った。

❖ 1つうまくいくと、すぐに次へとステップUPしそうになることが、どんなに大変なことか、子どもからきちんとキャッチしようと思いました。

「沖縄にしながら、花輪先生の講話が聴講できたことに感謝いたします。」とのメッセージを複数いただき、「そうでしょ～。すごいんですよ。」と嬉しくなりました。

## 教育実践交流発表会

8月17日 9:30～12:30

領域	発表者	テーマ
小学校	網敷 藤代（教諭）	「ソーシャルスキル教育を活用した 気になる子への対応」
中学校	石川 翔（教諭）	「数学授業でのポジティブな関わり合い —評価の可視化—」
中学校	新本 律子 養護教諭	「健康観察から養護教諭が気になる生徒への関わり —身体症状を呈した不登校生への対応—」
高等学校	大城 育子 (浦添高校)	「帰属意識を高める予防的解発的な教育相談 —構成的グループエンカウンターとアサーティブトレーニングの実践を通して—」
相談援助	鈴木 美奈子 (浦添教育事務所)	「自己表出に難しさが見られるAくん ～学校・適応指導教室・当機関の連動支援～」